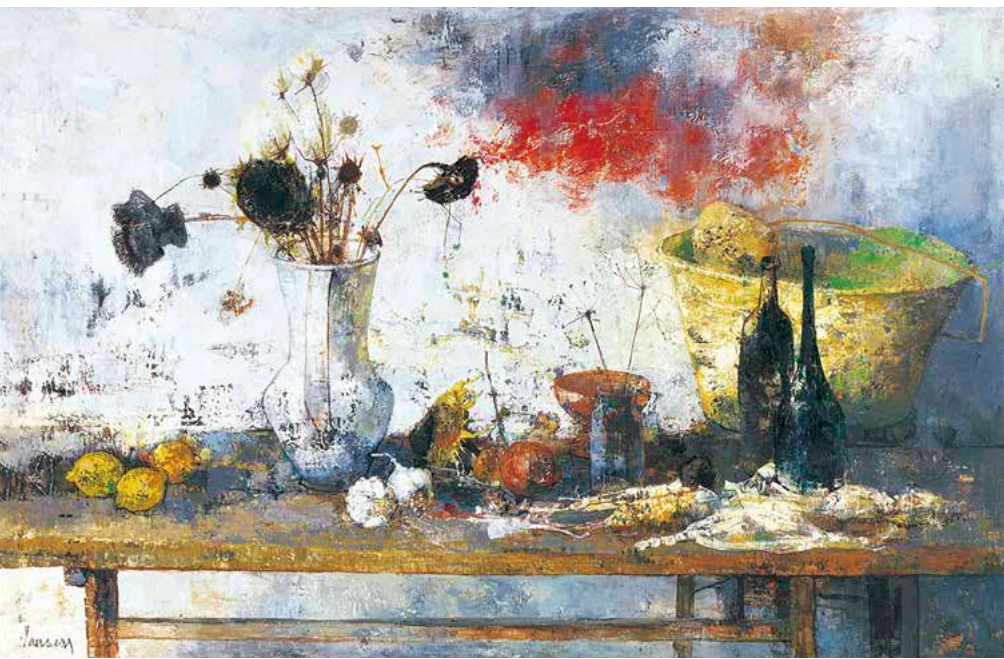




秋、安曇野アートライン。

50キロ、5市町村をアートが結ぶ。



1.「丘陵好日」高橋節郎漆パネル作品 2.実りの情景(安曇野市) 3.第4回そば猪口アート公募展大賞作品「ゆらり」田中若葉 4.高橋節郎生家と紅葉(写真1・3・4 高橋節郎美術館提供)
5.「あざみのある静物」ジャンジャンセン油彩作品(©安曇野ジャンセン美術館) 表紙:碌山美術館

風景、アート、 人が奏でる美しい時間

北アルプスの裾野に、豊かに横たわる田園地帯、安曇野。悠然とそびえる北アルプスの姿を間近に望み、季節の彩りをまとう森や水辺に親しんだり、田畑の実りを味わったりと、楽しみ尽さないエリアです。

この安曇野を満喫するうえで欠かせないキーワードが「アート」。エリアに連なる安曇野市、池田町、松川村、大町市、白馬村の5市町村、南北約50kmを結んで、19もの美術館、博物館、公園が加盟する「安曇野アートライン」をご存じでしょうか。「ライン」とはいつても、単に美術関連の施設が点在するルートを示しているだけではありません。絵画、彫刻、写真から現代アートまで、多彩なカテゴリー、テーマで展開する各館が連携を図りつつ、それぞれに個性を発揮し、質の高いアートシーンの提供を目指す活動の総称であり、同時に、このエリアに息づく文化の象徴とも受けとめられます。この地になぜこれほどまでの美の集積が実現したのでしょうか。

安曇野は、萩原碌山、高橋節郎をはじめ日本近現代の芸術、文化に大きな足跡を残した芸術家を多数生み出してきた地域。芸術の原点ともいえる美しい環境が、この地に暮らす人々と芸術との結びつきを深める後押しとなったのかもしれない。1958年の「碌山美術館」開館を皮切りに、安曇野はアートの聖地として歩み始めます。当地ゆかりの作家の作品や足跡を展示する館に加え、ロケーションにマッチした美術館が続々と誕生。新旧の施設が連携し、1998年の安曇野アートライン設立に至るのです。

加えて、近年は広大な国営公園が仲

間入りしました。人の手による芸術のみならず、大自然の造型や彩りも含めたアートの鑑賞、体験、触れ合いを楽しめるエリアへと進化しています。

この風土と環境に魅了され、安曇野にアトリエやギャラリー、住居を構え、活動の拠点とするようになった現代のアーティストも大勢います。そのジャンルもまた多種多様。彼らをはじめとし、この地で創作や文化活動に携わる100組以上もの人や施設が共同し、毎年秋にさまざまな展示、体験、味わいなどで訪れる人々をもてなす「安曇野スタイル」も、10年の継続を経てすっかり定着しています。このイベントには安曇野アートライン加盟の数館も参加。国内外からこの地を訪れる人々、アーティスト、アートを紹介・展示する人々が一体となって、秋を紡ぐひとときが繰り広げられます。

色づき始めた木々や黄金色に輝く田園、天高く澄んだ青空に浮かぶ北アルプスなどが本格的な秋の訪れを告げる安曇野でのアート探訪の旅。のんびりドライブしながら目的地を目指すもよし、沿線のカフェやレストランで旬の味わいを楽しむもよし、久々に「道草」を楽しんでみませんか。



山、自然をテーマにした美術館が集結

多様なカテゴリー、多彩なテーマの美術館、博物館が名を連ねているのが、安曇野アートラインの特徴です。ことに山や自然をテーマにした館が集結している点は、北アルプスの山麓に広がるこの地域ならではの大きな魅力といえるでしょう。山岳絵画、山岳フォト、自然景観や生き物などのネイチャーフォト、登山に関する幅広い情報、さらには実際の山や自然に親しむスポットもあり、北アルプス&安曇野全体をアートとして楽しむことができます。



注目の企画展&イベント

芸術の秋を迎え、今年も各館で魅力的な企画展やイベントが開催されます。なかでもシリーズで展開している展覧会や恒例イベントは回を重ねるごとに充実度を増し、見ごたえのある内容が期待できます。

【9月5日(土)▶10月18日(日)】
安曇野キルト公募展 2015
★北アルプス展望美術館
国内外から多数の応募があり、恒例となった展覧会。「キルトに綴る想い」が反映された作品を展示。

【10月7日(木)▶2月21日(日)】
2015企画展③ ざわめき展
★安曇野ジャンセン美術館
ささやき→つぶやき→ざわめきと3部構成で展開する企画展第3弾。作品から静かな「ざわめき」を聞き取って。

【10月17日(土)▶11月15日(日)】
第4回そば猪口アート公募展
★安曇野高橋節郎記念美術館
小さなそば猪口にアートの輝き。国内外から応募で入選した116点を展示。

【10月14日(金)▶2016年1月31日(日)】
田淵行男写真展「山を撮る」
★田淵行男記念館
シンポジウムとも連動し、山岳写真の先駆者・田淵行男のモノクロ作品を紹介。山岳写真家・高橋公平、丸山祥司両氏の写真展も開催。

【10月24日(土)▶11月8日(日)】
安曇野ミュージアムギャラリー トークリレー 2015
★安曇野市美術館博物館連携事業 実行委員会参加施設
安曇野市内のミュージアムのおもてなし企画。3施設のギャラリートークを聞くとプレゼントが。安曇野アートラインでは豊科近代美術館、田淵行男記念館、安曇野高橋節郎記念美術館、碓山美術館、安曇野ジャンセン美術館、絵本美術館 森のうち、安曇野山岳美術館が参加。

【11月23日(月)・(祝)】
安曇野アートラインシンポジウム
★穂高交流学習センター「みらい」
年1回、安曇野アートライン推進協議会主催で開催。今年のテーマは「山岳写真」。

※他にも各館で魅力的な秋の企画展が予定されています。安曇野アートラインのホームページ「展覧会・イベントカレンダー」や、各館の情報をご確認ください。

安曇野アートライン公式ホームページ <http://azumino-artline.net/>
各館の詳細情報を確認できるほか、最新パンフレットのダウンロードもできます。
※休館等については各館にお問い合わせください。

取材協力：
安曇野アートライン平成27年度代表館 安曇野高橋節郎記念美術館ほか加盟各館
安曇野アートライン推進協議会事務局、安曇野市商工観光部 観光交流促進課
安曇野スタイル運営委員会



景観と人に育まれた アートの聖地、安曇野

間近にそびえ立つ北アルプスの山並み、四季を鮮やかに映し出す高原や田園の風景、点在する道祖神や歴史の面影。風景そのものがアートのように美しい安曇野だからこそ、安曇野アートラインは輝きを放っています。アートを展示する施設、アートとの出合いを楽しむ人々、自らアートやクラフトを創造する人々が渾然一体となって、刺激に満ちた時間、空間を提供しているのです。この秋も、さまざまな展覧会やイベントが待っています。

味わいの楽しみも多彩

美術館に併設のカフェやレストランで過ごすひとときや、近隣のグルメスポットを訪ね歩く楽しみが、アート散策を一層印象深いものしてくれます。安曇野アートライン沿線は、清涼な水、澄んだ空気、肥沃な大地に恵まれた豊かな農村エリア。地場産の食材を使ったスイーツや食事メニューが充実している美術館カフェもあります。美術館で楽しむ“実りの秋”も、素敵ですね。



カフェで過ごす時間さえアートになりそう。地元産の素材を味わえるカフェが多いのも魅力。(写真:安曇野ジャンセン美術館併設の「そばカフェ レイヨンヴェール」)

時間も空間もアートとして楽しめる年1回のイベント

安曇野スタイル2015 10月30日(金)～11月3日(火)・(祝)

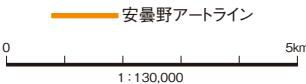
安曇野でものづくりや文化活動に携わる人たちの息づかいを感じながら、工房・アトリエ・美術館・ギャラリー・クラフトショップ・飲食店・宿泊施設などで作品展示や工房公開・ワークショップや特別メニューなどを楽しむ5日間。今年は105会場で125組の参加が予定されています。安曇野アートライン加盟館のうち、安曇野ちひろ美術館、安曇野高橋節郎記念美術館、絵本美術館 森のうち、安曇野市豊科近代美術館、北アルプス展望美術館も会場となります。



安曇野アートヒルズミュージアムでは、様々なガラス作品に出会える。



白馬村
大町市
松川村
安曇野市
池田町
長野県



MIYAMA information

リスク対策へのミヤマからのご提案です。

スピーディな対応で被害の拡大を防止します。

ミヤマでは環境リスクを“発生させない”未然防止対策に加え、緊急事態が“発生した”場合にその影響を最小限に食い止める緊急対策サービスをご提供しています。廃液貯蔵施設のオーバーフロー等に伴う緊急回収などのほか、事故や自然災害による環境被害などについても迅速な復旧を行い、お客様の円滑な事業継続をサポートいたします。

緊急事例

- 車両事故に伴う燃料や運搬薬品の流出
- 地震や火災が原因の貯蔵薬品の漏えいや混触によるガスの発生
- 埋設配管の破損による土壌からの有毒ガス発生



1 緊急出動

薬品、廃液の漏洩や混合等の不測の事態に対し、専門知識を持ったスタッフが現地に急行し対応策を提案、実行します。



パワープロベスター



高圧洗浄車

2 オンサイト分析

緊急時には分析スタッフが現地に機器を持ち込み、その場で分析を実施。リアルタイムに状況判断を行うことにより、現場の作業をスピーディに行います。



3 発生ガスの抑制・浄化

発生ガスのサンプリングと分析を行い、ガスの抑制及び室内空気の浄化策を検討し、方策をご提案。作業は化学防護服など、万全な装備で実施します。



24時間365日お客様とミヤマを結ぶ ホットラインシステム TEL 026-285-4166

生物多様性の保全へ ミヤマシジミの保護活動を開始しました。



平成27年8月28日、長野県庁において阿部知事立会のもと、信州生物多様性ネットきずな、およびミヤマシジミ研究会と「生物多様性保全パートナーシップ協定」を締結いたしました。今後、絶滅危惧種であるミヤマシジミの保護活動を通じ、生物多様性の保全に積極的に取り組んでまいります。



2015 October-November



総合環境企業

ミヤマ株式会社

本社／〒381-2283 長野県長野市丹波島一丁目1番12号 TEL.026-285-4166(代) FAX.026-283-0011

■リサイクルセンター／東京・燕・秋田・名古屋・大阪 ■工場／中野・上越・分水・燕・大町
■技術開発センター ■EM開発センター ■長野テクノセンター ■保全機材センター
■名古屋プラントサービスセンター ■関西プラントサービスセンター
■営業所／盛岡・秋田・仙台・郡山・宇都宮・水戸・新潟・長岡・燕・上越・中野・長野・上田・松本・諏訪
甲府・前橋・埼玉・東京・千葉・横浜・静岡・富山・名古屋・京都・大阪

詳しくは当社ホームページへ <http://www.miyama.net/>

PIGEON POST #29

発行日：平成27年10月1日 発行人：南 克明 企画：ミヤマ株式会社 広報室 制作：デザインワンエイト